研究論文

初妊婦の不安尺度の作成と不安の構造

ー信頼性および妥当性の検証ー

岩　田　銀　子・橋　本　公　雄*・平　井　敏　幸**・森　谷　　絜***

Creating Standardized Measurements and Identifying the Constituents of Fear in Women in Their First Pregnancy

ー Examination of the Reliability and Validity of their Utilization ー

IWATA Ginko,　HASHIMOTO Kimio,　HIRAI Toshiyuki and MORIYA Kiyoshi

Abstract:　Puurpose:1.To create standardized measurements of fear in women in their first pregnancy. 2.To identify the fear constituent in such women in modern society. Study Approach: Seiichi Hanazawa Prepared 32 questions for a questionnaire on matrnal psychology during pregnancy. The Reliability and Validity of these questions, however, have yet not been examined. In addition, fear in pregnant women in today's society is subject to change. We gave 132 women in their first pregnancy a questionnaire containing 46 questions regarding fear and extracted 23 questions and 8 factors by analyzing the main constituents. Results and Discussion: Regarding the reliability of these 23 questions, the alpha factorsare 0.7 and the Validity was proven by the Validity of the constituent concept, carefully determined by an analysis of the main constituents and the relationship with the state-trait anxiety inventory. These fears demonstrate the psychological and social factors which characterize the fear felt by pregnant woman in modern society.

Ⅰ．緒言

妊娠および出産という事態が，女性において身体的および心理的に大きな危機の一つとみなしうることは，心身医学，心理学，看護学の領域で，かねてより関心がもたれて，指摘されてきたことである。妊産婦固有の情動的特性とは，不安を中心とした過程と考えられる[1)]。10か月にわたる人間の再生産過程を担う妊婦たちの種々の不安を解消し，またその社会的支援体制を確立することは，極めて重要な課題であるといえる。

妊産婦の不安については，1970年代からさまざまな不安を測定する心理検査指標を用いて，研究が進められている。川田等[2)]はSpielberger[3)]のState-Trait Anxiety Inventory《STAI（X-1）》（状態不安）[4)]を用いて妊娠期から産褥期の不安過程を調べ，これまでの報告[5, 6, 7)]と同様に，妊娠期の不安は妊娠初期に比較的高いが，中期，後期に低下し，分娩前は急激に増加して，産褥期に低下すると，報告している。これ以降，妊産婦の不安において，STAI指標の妥当性が認知されている。Deborah[8)]も妊娠中のストレスや不安をSTAI（X-1）で調べ，妊娠の第１期｛1st trimester（～13週）｝と第２期｛2nd trimester（14～27週）｝に比較して，第３期｛3rd trimester（28週～41週）｝に不安が高くなることを報告している。

北海道文教大学人間科学部看護学科
*九州大学健康科学センター
**北海道文教大学人間科学部健康栄養学科本学非常勤講師
***天使大学大学院看護栄養学研究科

花沢[9]は母性不安の８領域に関する32項目と一般不安に関する16項目の計48項目からなる「妊娠期母性心理質問紙Ⅵ型」を作成した。この質問紙は妊婦の不安を網羅的に挙げているが，項目の妥当性については検討されていない。河野ら[10]は，「妊娠期母性心理質問紙Ⅵ型」の因子構造を明らかにするため，因子分析を用いて７因子を抽出したが，花沢の作成した質問項目とは一致しなかったと，報告している。

現代の妊婦の不安は変容している可能性があり，花沢が開発した「妊娠期母性心理質問紙Ⅵ型」では，現代社会の妊婦の不安を十分に把握されていないと考える。そこで本研究では，花沢，河野等の不安項目を参考にし，新たに初妊婦の不安尺度（以下不安尺度）を作成した。さらに，その信頼性・妥当性を検証した。なお，母性不安の定義に関し，花沢[11]の「妊産婦の状況不安を，妊娠・分娩・産褥あるいは育児という場面との関わりで，妊産婦に体験される不安あるいは恐怖や懸念」の定義を用いる。

Ⅱ．初妊婦用不安尺度の作成

Ⅱ－１．研究方法

（１）研究方法

１）調査対象者：2002年９月の１ヶ月間に，北海道の大都市の産科外来に来院した初妊婦。

２）データ収集の手続き：調査の目的等に了解が得られた142人に依頼し，有効回答132人（有効回答率は93.0%）を分析対象とし，アンケートの記入は，その場で無記名で自記式記入を依頼して回収した。

３）対象者の背景について：平均年齢は28.3±4.6（SD）歳であり，最少年齢18歳，最高年齢は41歳であった。妊娠週数は，15週未満16人，16～27週50人，28週以降66人であった。

４）倫理的配慮：データはすべて匿名のまま統計的に処理され個人の回答が特定されることはなく，個人のプライバシーが侵害されることはないことを説明した。

（２）質問紙の構成

著者は花沢，河野等の下位概念を参考にしつつも，花沢，河野等の尺度で挙げられていない項目

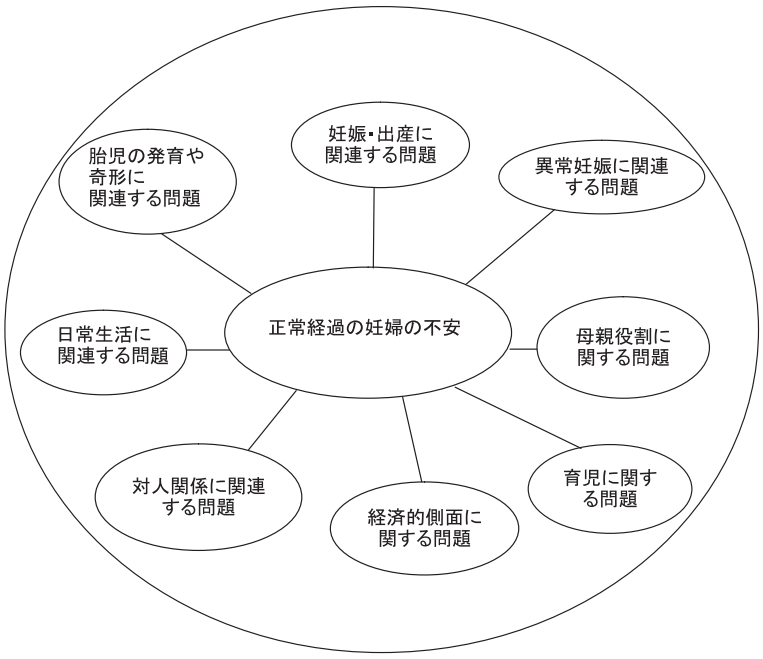

図１　初妊婦の不安の構造

として，第一に母親役割が取れるか否かの自信の有無，自己成長に関する不安および子育て観に関わる内容として，『母親役割に関連する問題』をあげた。第二に，『経済的側面に関連する問題』を挙げた。妊娠によって生じる経済的負担の増加などと相まって，家庭生活の経済的決済を担う主婦に継続的に課せられている課題である。第三に，妊娠に伴ない生じるマイナートラブルについて，『日常生活に関連する問題』として設定した。マイナートラブルは，妊娠経過にともなう不可避的な身体的問題として，これまであまり重きがおかれてこなかったが，初めて妊娠を経験する妊婦にとっては，不安を醸成する重要な要因である。この三つの項目を加え下位概念を図のごとくの８項目を設定した（図１）。臨床的に使用するためには，尺度は妊婦に負担を与えない程度の項目で不安を捉えられることを考慮し，８項目各々の下に計46項目を設定した。判定法は，５段階尺度（全くそうである，ややそうである，少しそうである，ほとんどそうでない，全くそうでない）に対して各々，５点～１点を配点で測定した。得点が高いほど不安が高いことを示す。

（３）妥当性，信頼性の検証

妊婦用不安尺度項目の表面妥当性，内容妥当性に関しては，助産学を専門（看護大学の教員）としている教師および看護師で教育学部の修士課程に所属する学生に見てもらい，質問項目の内容と前述の８つの構成要素の合致の有無の検討を行った。構成概念の妥当性の検討は主成分分析を行った。さらに，著者らが作成したスケールの妥当性を既に信頼性・妥当性の検証されている水口等[12]によって日本語版に翻訳されたSpielbergerのState-Trait Anxiety Inventory《以下STAI（X-1)》との相関で検証した。不安尺度の信頼性の検討はCronbach's α 係数を用いた。

（４）解析方法

分析はすべてSPSS 10.0J for Windowsを使用。２群の値の相関はSpearmanの順位相関係数の検定によった。$p<0.05$を有意水準とし，得点は平均値±（SD）で表した。

Ⅱ－２．結果

（１）項目分析

項目の尖度（２以上）と歪度（1.5以上）を調べたところ，８項目（項目番号10，14，19，21，22，25，42，43）が基準に合わなかったのでこれらの項目を削除した。また，類似の質問項目を検討するために因子間の相関係数を求めたところ相関係数0.9以上の項目は認められず，類似している質問項目は認められなかった。（しかし，項目３は相関係数の値が少な過ぎるため削除した）よって，項目分析の結果，合計９項目を削除し，37項目を精選した。

（２）構成概念妥当性（主成分分析）

精選された37項目の不安尺度について主成分分析を行い，因子構造を明らかにした。回転の基準は固有値1.00以上，バリマックス法で行い，11個の因子を抽出した。これらは全分散の66.3%を説明していた。

さらに，次の手順にしたがい，因子および項目をさらに精選した《表1（1)》,《表1（2)》。

①因子負荷量は0.400を基準とし，それに満たない項目は削除した。②第５因子は解釈不能であったため，尺度を構成する因子からは削除した。③第６因子「父親には妊娠・出産のことは相談したくない」の項目は他の２項目と内容の整合性がない為削除した。結果,第６因子は２項目となった。④因子の因子寄与率を調べ，第９因子，因子寄与率5.22%，累積寄与率58.05%迄を採用した。④以上の手続きにより，３因子が削除され，９因子，23項目が精選された。そこで,この23項目に関し，もう一度因子分析を行った。その結果，８因子が抽出され，全分散寄与率は70.3%を示した（表2)。

（３）因子の命名

８つの因子を命名した。第１因子は，出産・育児にともなう経済面での不安を意味し，「経済的側面に対する不安」。第２因子は，異常出産に対する不安や妊娠の合併症に対する不安の感情を意

表 1(1) 初妊婦の不安の分析結果　　主成分分析（バリマックス法）

n＝132

	項　　目	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	第5因子	第6因子
A45	異常出産の不安に対する不安がある	0.892	0.021	0.064	0.009	0.104	0.115
A46	妊娠の合併症の可能性に対する不安がある	0.814	0.120	0.094	0.002	0.134	0.019
A44	帝王切開の可能性による不安がある	0.751	0.122	−0.183	−0.059	0.001	0.073
A28	妊娠・出産の経過に問題があるのではと不安である	0.538	0.086	0.269	0.173	0.111	−0.061
A35	収入の面で不安がある	0.069	0.839	0.160	0.103	−0.014	0.064
A33	家族が増えることによる経済的な心配がある	0.154	0.830	0.113	0.135	−0.090	0.114
A36	経済的問題がある	0.017	0.753	0.082	0.110	0.233	0.012
A34	出産・育児用品の費用に不安がある	0.071	0.598	−0.037	−0.165	0.381	0.075
A9	よい母親になれる自信がない	−0.024	0.088	0.807	−0.043	0.161	0.042
A16	自己の成長と育児を両立する自信がない	0.040	0.071	0.806	0.039	−0.016	0.102
A11	育児がうまくできるか不安です	0.093	0.145	0.570	0.141	0.327	0.134
A15	妻と母親との役割を両立できる自信がない	0.280	0.198	0.475	0.142	−0.162	0.189
A17	夫は妊娠期の妻の気持ちをわかってくれない	0.060	0.081	−0.083	0.863	0.060	0.062
A18	夫は妊娠期の妻を支えてくれない	−0.057	0.092	0.134	0.754	−0.121	−0.016
A23	夫は父性意識が希薄だと感じる	0.085	0.074	0.098	0.729	0.126	0.116
A37	母乳がよくでるか不安がある	0.160	0.174	0.082	−0.065	0.672	0.084
A38	育児用品の種類が揃っているか不安がある	−0.064	0.254	0.156	−0.104	0.562	0.091
A30	胎児に奇形や先天性の障害がないか不安がある	0.415	−0.058	0.169	0.206	0.551	0.058
A29	痛みに対する不安，恐怖がある	0.294	0.023	0.190	0.183	0.499	0.258
A12	自分の時間が持てないのではと不安である	0.070	0.153	0.196	0.024	0.046	0.848
A13	夫と二人だけの時間がなくなるのではないかと不安です	0.081	0.062	0.059	0.192	0.131	0.756
A26	父親には妊娠・出産のことは相談したくない	0.004	0.098	−0.073	−0.158	0.243	0.474
A2	腹部増大により動作が不自由です	−0.065	−0.041	−0.074	−0.084	0.019	0.251
A4	不眠がつらい	−0.012	0.020	0.118	0.002	0.126	−0.166
A5	腰痛がつらい	0.093	−0.176	0.010	0.105	0.260	−0.033
A40	妊娠後の家事等への援助者がいないことに不安がある	0.189	0.120	0.102	0.201	0.061	0.050
A39	育児・家事がやれる体力があるか不安がある	0.141	−0.035	0.286	−0.059	0.227	0.358
A41	出産後の育児・家事への協力者について心配がある	0.227	0.422	−0.059	0.084	−0.165	0.012
A24	母親には妊娠・出産のことは相談したくない	−0.017	−0.008	0.154	−0.029	−0.154	0.080
A20	妊娠・出産等の悩みについて相談者がいるので不安である	0.136	0.051	0.252	0.095	−0.025	0.134
A27	妊娠・出産に関して専門家の知識やアドバイスの機会がないことに不安がある	−0.053	0.033	−0.063	0.097	0.266	0.270
A31	胎児が適正な発育経過をたどっているか否か不安である	0.327	0.073	0.321	0.077	0.162	−0.156
A1	つわりはとても苦痛です	0.045	0.058	0.053	−0.036	−0.043	0.155
A8	体調のコントロールがつかない苦痛です	−0.031	0.104	0.189	0.107	−0.005	0.094
A32	胎児の体位の異常（逆子）がないか不安がある	0.309	−0.060	0.099	0.001	0.277	−0.099
A6	便秘がつらい	0.189	0.049	0.032	−0.121	−0.039	0.226
A7	妊娠中に必要な食事がうまくとれているかどうか不安です	−0.104	−0.002	0.357	0.208	0.184	−0.156
	固有値	3.143	2.839	2.682	2.308	2.242	2.192
	因子寄与率	8.495	7.673	7.248	6.238	6.060	5.925
	累積寄与率	8.495	16.168	23.416	29.654	35.714	41.639

37項目，固有値1.0で因子を抽出した。
第5因子解釈不能。
第6因子A26は解釈不能。
第9因子A31解釈不能。
上記の因子を削除した9因子(分散寄与率5.22)27項目まで採用した。
さらに因子を3項目ずつ揃え23項目を精選した。

表 1(2)　初妊婦の不安の分析結果　　主成分分析（バリマックス法）

n＝132

	項　　目	第 7因子	第 8因子	第 9因子	第10因子	第11因子
A45	異常出産の不安に対する不安がある	0.009	0.133	−0.046	−0.004	0.048
A46	妊娠の合併症の可能性に対する不安がある	0.072	0.090	0.009	−0.081	0.068
A44	帝王切開の可能性による不安がある	−0.066	0.033	0.056	0.094	−0.055
A28	妊娠・出産の経過に問題があるのではと不安である	−0.030	0.103	0.243	0.167	0.052
A35	収入の面で不安がある	−0.047	0.024	−0.112	−0.040	0.019
A33	家族が増えることによる経済的な心配がある	−0.101	0.026	−0.065	0.030	0.053
A36	経済的問題がある	0.005	0.103	0.097	0.064	−0.054
A34	出産・育児用品の費用に不安がある	0.026	−0.002	0.209	0.087	0.065
A9	よい母親になれる自信がない	−0.009	−0.014	0.138	0.037	0.068
A16	自己の成長と育児を両立する自信がない	0.068	0.145	0.191	0.083	0.082
A11	育児がうまくできるか不安です	−0.015	0.212	−0.072	−0.003	0.028
A15	妻と母親との役割を両立できる自信がない	0.173	−0.231	0.163	0.141	0.137
A17	夫は妊娠期の妻の気持ちをわかってくれない	0.016	−0.032	−0.016	−0.130	0.022
A18	夫は妊娠期の妻を支えてくれない	0.047	0.180	−0.013	−0.051	0.018
A23	夫は父性意識が希薄だと感じる	−0.112	0.012	0.107	0.277	−0.005
A37	母乳がよくでるか不安がある	0.289	−0.121	−0.098	−0.081	0.045
A38	育児用品の種類が揃っているか不安がある	0.358	0.182	0.222	0.058	−0.019
A30	胎児に奇形や先天性の障害がないか不安がある	0.013	0.121	−0.121	−0.064	0.095
A29	痛みに対する不安，恐怖がある	−0.069	0.167	−0.217	0.153	−0.015
A12	自分の時間が持てないのではと不安である	0.073	0.034	0.006	0.070	0.040
A13	夫と二人だけの時間がなくなるのではないかと不安です	−0.008	0.051	0.140	0.159	0.184
A26	父親には妊娠・出産のことは相談したくない	−0.300	0.378	0.235	−0.271	−0.090
A2	腹部増大により動作が不自由です	0.737	0.114	−0.127	0.036	−0.061
A4	不眠がつらい	0.651	0.162	0.077	0.117	0.106
A5	腰痛がつらい	0.577	−0.108	0.186	−0.036	0.230
A40	妊娠後の家事等への援助者がいないことに不安がある	0.178	0.733	0.139	0.132	0.003
A39	育児・家事がやれる体力があるか不安がある	0.237	0.528	−0.103	0.121	−0.110
A41	出産後の育児・家事への協力者について心配がある	0.073	0.491	0.249	−0.020	0.113
A24	母親には妊娠・出産のことは相談したくない	0.079	0.038	0.778	−0.110	−0.053
A20	妊娠・出産等の悩みについて相談者がいるので不安である	−0.047	0.404	0.574	0.053	0.105
A27	妊娠・出産に関して専門家の知識やアドバイスの機会がないことに不安がある	−0.402	0.186	0.441	0.013	0.399
A31	胎児が適正な発育経過をたどっているか否か不安である	0.080	−0.207	0.441	0.189	−0.167
A1	つわりはとても苦痛です	0.086	0.117	−0.056	0.786	−0.155
A8	体調のコントロールがつかない苦痛です	0.243	−0.044	0.108	0.542	0.530
A32	胎児の体位の異常（逆子）がないか不安がある	−0.215	0.398	−0.113	0.425	0.223
A6	便秘がつらい	0.211	−0.066	−0.050	−0.072	0.677
A7	妊娠中に必要な食事がうまくとれているかどうか不安です	−0.123	0.205	−0.042	−0.122	0.546
	固有値	2.129	2.011	1.933	1.534	1.515
	因子寄与率	5.753	5.436	5.224	4.147	4.095
	累積寄与率	47.392	52.828	58.052	62.199	66.294

表２初妊婦の不安因子　　主成分分析（バリマックス法）

n＝132

因子名		項目	第１因子	第２因子	第３因子	第４因子	第５因子	第６因子	第７因子	第８因子
経済的側面に関する不安	A33	家族が増えることによる経済的不安	0.869	0.117	0.062	0.089	0.108	0.018	−0.085	0.029
	A35	収入面の不安	0.858	0.036	0.131	0.086	0.047	−0.081	−0.078	0.039
	A36	経済的問題	0.769	0.071	0.142	0.080	0.084	0.102	0.071	0.039
異常妊娠に関する不安	A45	異常出産に対する不安	0.035	0.916	0.120	0.027	0.117	−0.019	0.046	0.117
	A46	妊娠の合併症の可能性による不安	0.135	0.880	0.155	0.011	0.018	0.029	0.103	0.052
	A44	帝王切開の可能性による不安	0.081	0.762	−0.173	−0.024	0.050	0.030	−0.108	0.120
母親役割への不安	A9	よい母親になれる自信がない	0.105	−0.021	0.858	−0.034	0.048	0.124	0.080	−0.041
	A16	自己成長と育児を両立する自信がない	0.055	−0.024	0.762	0.053	0.055	0.199	0.018	0.259
	A11	育児がうまくできるか不安	0.187	0.151	0.681	0.154	0.186	−0.004	0.076	0.059
夫への不安	A17	夫は妊娠期の妻の気持ちを分かってくれない	0.094	0.013	−0.111	0.853	0.047	−0.020	0.011	−0.004
	A18	夫は妊娠期の妻を支えてくれない	0.089	−0.086	0.109	0.787	−0.072	0.022	−0.020	0.161
	A23	夫は父性意識が希薄だと感じる	0.071	0.085	0.145	0.761	0.166	0.085	−0.034	−0.004
生活時間変化への不安	A13	夫とふたりだけの時間がなくなるのではないかと不安です	0.079	0.082	0.046	0.139	0.860	0.174	0.039	0.092
	A12	自分の時間がもてない	0.149	0.072	0.193	−0.013	0.847	0.013	0.032	0.139
情報支援に関する不安	A24	母親には妊娠・出産のことは相談しない	−0.031	−0.070	0.086	−0.062	−0.019	0.764	0.063	0.036
	A20	妊娠・出産等の悩みについて相談者がいないことに不安がある	0.064	0.080	0.217	0.091	0.079	0.700	−0.041	0.342
	A27	妊娠・出産について専門家から知識やアドバイスを得る機会がないことに不安がある	0.055	0.074	0.065	0.131	0.373	0.570	−0.108	−0.166
身体的変化への不安	A5	腰痛がつらい	−0.144	0.171	0.134	0.101	0.032	0.116	0.780	−0.239
	A2	腹部増大により動作が不自由です	−0.003	−0.088	−0.100	−0.125	0.225	−0.199	0.714	0.216
	A4	不眠がつらい	0.041	−0.035	0.142	−0.028	−0.139	0.036	0.696	0.261
家事への不安	A40	妊娠後の家事等への援助者いないことに不安がある	0.099	0.227	0.132	0.214	0.087	0.199	0.164	0.674
	A39	育児・家事がやれる体力があるか不安がある	−0.066	0.139	0.292	−0.041	0.365	−0.115	0.120	0.661
	A41	出産後の育児・家事への協力者について不安がある	0.417	0.149	−0.138	0.082	−0.063	0.366	0.027	0.503
		固有値	2.427	2.413	2.203	2.106	1.932	1.752	1.721	1.622
		因子寄与率	10.553	10.493	9.579	9.158	8.399	7.616	7.481	7.053
		累積寄与率	10.553	21.046	30.625	39.783	48.182	55.798	63.279	70.332

表1(1),1(2)に挙げた23項目について再度主成分分析を行い，8因子，23項目（全分散寄与率70.33%）を抽出した。

味し，「異常妊娠に関する不安」。第３因子は，育児や母親としての役割が取れるか否かについての自信の有無や自己成長についての不安を意味し，「母親役割への不安」。第４因子は，この因子は夫が妊娠期の妻に対して理解がないことや妻を支えてくれていないことへの不満を意味し，「夫への不安」。第５因子は，育児に伴い自分の時間がなくなることの不安や，子どもができることによる夫との関係の変化に関する不安を意味し，「生活（時間）変化への不安」。第６因子は，妊娠・出産への相談者がいないことへの不安を意味し，「情報支援に関する不安」。第７因子は，妊娠により不眠や腰痛など，日常生活において不快感や苦痛を意味し，「身体的変化に対する不安」。第８因子は，妊娠・出産への支援者がいないことへの不安を意味し，「家事への不安」とした。

（４）尺度の妥当性，信頼性の検証

妊婦用不安尺度の妥当性を，信頼性，妥当性が認められているSTAI（X-1）との相関を見た結果，STAI（X-1）との間に（rs＝0.594）（n＝132）の中程度の相関が認められた。次に８因子の各々とSTAI（X-1）との相関をみたところ，第７因子（rs＝0.170）を除き，７個の因子はSTAI（X-1）と正の相関が認められた（表３）。次に，作成された妊婦用不安尺度の信頼性の検証には，Cronbach's α 係数を用いた。23項目の不安スケールの α 係数は0.789であった。各々の不安の下位因子の α 係数を（表４）に示す。

表３ STAI(X-1) 得点との相関による不安尺度の妥当性の検討

n＝132

	不安因子	因子の命名	rs	
STAI(X-1)得点	不安第 1因子	経済的側面に関する不安	0.214	*
	不安第 2因子	異常妊娠に関する不安	0.334	**
	不安第 3因子	母親役割への不安	0.493	**
	不安第 4因子	夫への不安	0.222	*
	不安第 5因子	生活時間変化の不安	0.256	*
	不安第 6因子	情報支援に関する不安	0.246	*
	不安第 7因子	身体的変化に対する不安	0.170	
	不安第 8因子	家事への不安	0.347	**

Spearmanの順位相関係数の検定によった。　rs：順位相関係数
**p<0.01　*p<0.05

表４ 妊婦の不安尺度の信頼性係数

n＝132

因子名	因子の命名	Cronbach's α係数
不安第 1因子	経済的側面に関する不安	0.823
不安第 2因子	異常妊娠に関する不安	0.853
不安第 3因子	母親役割への不安	0.734
不安第 4因子	夫への不安	0.750
不安第 5因子	生活時間変化への不安	0.839
不安第 6因子	情報支援に関する不安	0.540
不安第 7因子	身体的変化対する不安	0.600
不安第 8因子	家事への不安	0.581
総合計		0.789

Ⅱ－３．考察

（１）尺度の妥当性，信頼性について

構成概念妥当性について，主成分分析の結果，著者らが下位概念として設定していた内容と一部差異が認められた。第１に，下位概念に設定していた「胎児の発育や奇形に関連する問題」が，まとまった因子としては抽出されなかった点について考察する。その因子は，第５因子「胎児に奇形や先天性の障害がないか不安がある」と第９因子「胎児が適性な発育経過をたどっているか否か不安である」，第10因子「胎児の体位の異常（逆子）がないか不安がある」に分かれて抽出され，「胎児の発育や奇形に関連する問題」は，まとまって因子として抽出されなかった。胎児の異常の有無については，妊婦健診の中で厳密なチェックと説明がされるようになったこと等，妊婦の不安は軽減されていると推察する。従って，これらの不安は下位概念の「異常妊娠に関する不安」に内包されたと考える。第２として，下位概念として設定していなかったが，第６因子に妊娠・出産について，相談者がいないことの不安を意味する「情報支援に関する不安」の因子が抽出された。この因子を見ると，「母親には妊娠・出産のことは相談しない」，「妊娠・出産等の悩みについての相談者がいないことに不安がある」，「妊娠・出産について専門家から知識やアドバイスを得る機会がないことに不安がある」の３つから構成されている。この因子が抽出された背景をみると，少子化および核家族化に拍車がかかっている昨今，身近に妊娠・出産に対して相談する人がいないことや，チョットしたことなので専門家にはなかなか聞きにくいなどの状況があると考えられる。初妊婦にとっては出産の情報やアドバイスは不可欠である。従って，「情報支援に関する不安」は現代の妊婦にとっては避けられない不安である。次に，花沢，河野らが抽出した妊婦の不安因子と著者らが抽出した不安因子との比較を行う。花沢，河野らで抽出された母性不安因子は，身体的悪影響への不安因子，自己イメージ変化への不安因子，夫への不満因子，児の異常への不安因子，出産への不安因子，社会的自己評価の変化への不安因子，身体的変化への不安因子の７因子を抽出していた。著者らの抽出した因子はほぼ花沢，河野らの抽出した因子を網羅していたが，花沢，河野らが抽出しておらず，著者らが抽出した因子は①情報支援に関する不安因子，②家事への不安因子，③経済的側面に対する不安因子，④生活（時間）変化への不安因子であった。これらは現代社会における妊婦の社会的側面への不安を示唆するものである。助産師の妊婦への関わりとして，社会的側面への介入が必要であると考える。

次に作成された妊婦用不安尺度の妥当性について考察する。信頼性，妥当性が認められているSTAI（X-1）との相関を見ると，STAI（X-1）との間の相関係数は（rs＝0.594）（n＝132）であり，妊婦用不安尺度とSTAI（X-1）との間には中程度の正の相関が認められた。次に８因子の各々とSTAI（X-1）との相関をみたところ，第７因子（rs＝0.170）を除く，他の因子間にSTAI（X-1）間に正の相関が認められたことは，概ね妥当性があると考えられる。次に，尺度の信頼性について，各因子ごとに算出した信頼性係数については，信頼性係数が0.7以上の因子は，第１因子，第２因子，第３因子，第４因子，第５因子であったので，信頼性はあるといえる。また，第６因子，第７因，第８因子は信頼性係数0.7未満であったがおおよそα係数が0.6程度あり，下位概念との整合性を内容妥当性から検討した結果，これらの因子も採

用されると考える。

Ⅱ－４．結論と今後の課題

１）不安の下位概念を以下に抽出した。それらは，「経済的側面に対する不安因子」，「異常妊娠に関する不安因子」，「母親役割への不安因子」，「夫への不安因子」，「生活（時間）変化への不安因子」，「情報支援に関する不安因子」，「身体的変化に対する不安因子」，「家事への不安因子」の８因子，23項目の初妊婦用不安尺度である。２）８因子のCronbach' α係数について，信頼性係数が0.7以上の因子は，第１因子，第２因子，第３因子，第４因子，第５因子であり，信頼性はあるといえる。また，第６因子，第７因子，第８因子は信頼性係数0.7未満であったが，α係数が0.6程度あり，下位概念との整合性を内容妥当性から検討し，これらも採用されると考える。３）本尺度は，第７因子を除き，既に信頼性・妥当性が認められているSTAI（X-1）と正の相関が認められたことから，本尺度の妥当性が認められたと考える。４）初妊婦の不安の概念を測る尺度として８つの下位概念は主成分分析により，ほぼ同様の８つの因子を抽出した。これにより，構成概念妥当性は検証されたと考える。しかし，信頼性係数が0.7未満の下位尺度も一部認められたため，今後はさらに質問内容の表現や質問項目数の増加を検討し，構成概念妥当性ではその差異の払拭に努力して，信頼性・妥当性の高い尺度を作成していきたい。

引用文献

1）郷久鉞二:妊娠と心身医学,産婦人科MOOK No3 婦人の心身症,金原出版, 1978, 216-224.

2）川田清弥，川田洋一，亀谷由香他1988.：妊産褥婦の不安について,周産期医学, 1988, 18, 151-156.

3）Spielberger, C. D. , Gorsuch, R. L. , ＆Lushene, R. E. :Manual for the state trait anxiety inventory（Self-evaluation questionnaire ），
Consulting Psychologists, 1970, 2-24, Palo Alto,Calif.

4）水口公信，下仲順子，中里克治：日本版STAI，三京房, 1991, 1-16.

5）1）郷久鉞二：前掲書, 1978, 216-224.

6）松原達哉編:M.A.S.,最新心理テスト法入門, 日本文化科学社,1995, 118-119.

7）4）深谷和子,田島満利子:前掲書, 1971, 11, 29-44.

8）Deborah,D. C.,Julie L., Maria, D. ,et al.: Variations in stress level over the course of pregnancy-Factors associated with elevated hassles, state anxiety and pregnancy-specific stress, Journal of Psychosomatic Research, 1999, 47（6）, 609-621.

9）花沢成一：母性心理学,医学書院, 1992, 111-129.

10）河野千佳，横田正夫，花沢成一：母性不安の特徴についての検討,母性衛生, 1992, 9,309-316.

11）9）花沢成一：前掲書,111.

12）4）水口公信, 下仲順子, 中里克治： 前掲書,1991,1-16.

（2009年１月15日受稿）